

makers

Change  
Makers

Cha  
Ma

「持続可能な社会の創り手」を育てるための

# FTC チェンジメーカー 教育プログラム

## 指導案例集

Change  
Makers

ge  
rs

Change  
Makers

Change  
Makers

Change  
Makers

Change  
Makers

Cha  
M



FREE THE  
CHILDREN

Change  
Makers

## 目次

アクティビティ STEP0	セーフスペース ★★★★★	2
アクティビティ STEP1-A1	地域社会との関わり・グローバル化について考える ★	4
アクティビティ STEP1-B1	問題クモの巣 ★★★★★	6
アクティビティ STEP1-B2	ワールドマップ ★★★★★	8
アクティビティ STEP1-B3	世界の貧困について考えよう	10
アクティビティ STEP1-B4	教育の重要性への理解	10
アクティビティ STEP1-B5	世界の貧困について考えよう(国際問題編)	10
アクティビティ STEP1-B6	問題コンパス ★★★★★	11
アクティビティ STEP1-C1	ペアを探せ!SDGs問題マッチング ★★★★★	13
アクティビティ STEP1-C2	24 時間 SDGs を探せ ~SDGsを詳しく調べよう~ ★★	15
アクティビティ STEP1-C3	将来の夢×SDGsを探せ ~キャリア教育のSDGs~ ★★	17
アクティビティ STEP1-D1	子どもにまつわる社会課題を探せ!	19
アクティビティ STEP1-D2	スピーチから考える子どもの権利条約	20
アクティビティ STEP2-A1	チームビルディング シュー・タワー ★★	23
アクティビティ STEP2-A2	ナンバータッチ	24
アクティビティ STEP2-B1	インスピレーションカードゲーム ★★★★★	26
アクティビティ STEP2-C1	Gift + Issue = Change ★★★★★	29
アクティビティ STEP2-C2	S.M.A.R.T 目標を知ろう! ★★★★★	30
アクティビティ STEP2-C3	アクションの 7 つのステップを把握しよう! ★★★	31

STEP 0 ~ STEP 4 の各アクティビティの★マークで実施の判断基準を設けています。

★★★★★ 必須アクティビティ

★★★★★ 重要アクティビティ

★★★ アクティビティ (丁寧に進める際にお勧め)

★★ アクティビティ (丁寧に進め、単元に余裕がある場合にお勧め)

★ アクティビティ (今まで授業で取り上げていない場合、実施推奨)

また、各アクティビティに必要なスライド資料やワークシートは WE 教育プログラムの WEB サイトにおいて、無料でダウンロードいただけます。

必要なワークシートや説明資料は各アクティビティの説明文章に掲載しております。

# アクティビティ STEP0 セーフスペース ★★★★★

実施時間：30分

使用教材：アクティビティブック P.5～6 ガイドブック P.5、7、14、16

準備物：模造紙 1枚、マジックペン、画鋏や磁石等の掲示用具

形式：グループワークもしくは全体ワーク

## <活動内容>

全員が安心してWE教育プログラムに取り組めるようにするため、ガイドラインを策定する。

## <目標>

●安心してWE教育プログラムに取り組むためのガイドラインが明文化されている

## <児童・生徒の状態目標>

- 自分がWE教育プログラムで習得したい事を表現、他と共有出来ている
- 安心、安全かつ全員が納得できるディスカッションの場を創るためのルール・要素について考えを巡らせ、意見を出せている
- 自分の意見を相手に伝えられている(伝達内容を分かり易く伝えられる)
- 自分とは異なる考え・価値観を想像、受容しようという姿勢を示せている
- これからのWE教育プログラムの活動にワクワクしている

## <授業の流れ> ※短縮版(10分)は後日作成

概要	学習活動	留意点
導入 説明 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WE教育プログラムとは何か説明し、今後どのような学習活動を行っていくのか、大まかなイメージを持ってもらう。</li> <li>・セーフスペースとは何か説明し、決める必要性、今回の授業内容を理解してもらう。</li> </ul> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「WE教育プログラムとは、社会課題に対して、自分の得意なことを活かして、アクションを起こし、社会に対して変化を起こしていくものです。」</p> <p>「今日は、最初の回として、これからWE教育プログラムを進めていく上で、皆が安心して活動するためのルールを作りたいと思います。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業対象に応じて、話し方、言葉選び等の「ムード」を設定するようにする</li> <li>・セーフスペースの説明時に例を出しても良いが、あまり例を出し過ぎると、児童・生徒の思考が固まるので注意</li> </ul>
授業への期待、状態 目標の整理、共有 思考 2分 共有 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を通して、社会や自分自身がどういった状態になるとよいか考え、他の人と共有する。</li> <li>・共有時に良いと思った事は「いいね」と伝え、自分の考えに取り入れても良い事を伝える。</li> <li>・意見を認め、取り入れ合うことで、個々の状態目標の具体化、モチベーション向上も図る。</li> </ul> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「WE教育プログラムで社会課題に取り組んだ後、自分と社会がどのような状態になりたいか、2分ほど考えてみま</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・～について学びたい、活動したいといった、具体的な学習・活動内容ではなく、自分がどうなりたいかという状態目標を考えてもらうようにする</li> <li>・間違いや正解はない事を伝え、自由に考えさせるようにする</li> </ul>

	<p>しょう。正解は無いので、自由に考えましょう。」「それでは、考えた事をグループの人に話してみましよう。」</p>	
<p>セーフ スペース 作成</p> <p>ディスカッション 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出た意見を踏まえ、それらを達成するためにどのようなルールを皆で守るとよいか決める。</li> <li>・以下の4要素を基にルールを決める。</li> </ul> <p>【Welcome(いいね)】 他人の意見を尊重し、否定せず、受け入れる</p> <p>【Challenge(チャレンジ)】 それぞれが積極的に参加することで高め合う</p> <p>【Choice(選択)】 互いに無理強いはしない</p> <p>【Confidential(秘密は守る)】 ここで話すプライベートなことを他人に言わない</p> <p>&lt;声掛けの例&gt; 「セーフ・スペース作りのワークの目的は、今後様々なアクションを起こすにあたって、安心して信頼できる場を作るためです。」「共有したことを踏まえ、WE教育プログラムのルールを決めます。」「大勢の前で発表する時、できるだけ緊張せずに話すには、観客にどんな反応をしてもらいたいですか?」「話し合いの時、皆が安心して気持ちよく話すためには、どんな環境や態度が必要でしょうか?」「皆が頑張ろう・ワクワクしてきたと感じながら活動するには、どんな声掛けや反応が必要だと思いますか?」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や学級単位でルールが既存であれば、それらと関連させていくと良い。</li> <li>・大事な用語は定義を明確にする事、全員が納得した状態で合意を得る。</li> <li>・WE教育プログラムを進める中で全員が賛成すれば、誰でも、いつでも、ここで決めたルールを変更できる権利がある事を必ず伝えるようにする。</li> </ul>
<p>清書・掲示 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成したセーフスペースを模造紙に清書し、教室内の目に付く場所に掲示する。</li> <li>・問題が起きた場合は「皆で決めたルールだよ」と指摘する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目立つ所へ掲示するようにする</li> </ul>

## アクティビティ STEP1-A1 地域社会との関わり・グローバル化について考える ★

本項は、社会課題に関する興味関心が薄い児童・生徒が多い状況を想定した、「WE 教育プログラム導入のヒント」になります。

児童・生徒の状況を鑑みて、実施をご検討ください。

実施時間：45 分

使用教材：アクティビティブック P.7 ガイドブック P.17

準備物：模造紙 1 枚、マジックペン

### <活動内容>

自身の生活空間から、地域・世界との繋がりを実感し、社会課題への興味関心を高める。

社会のグローバル化に対し、自分がどのような考え・心構えを持てばよいか考え、気づきを深める。

### <目標>

- 自分の身の周りに、どのような組織・人が地域に貢献しているか言語化されている
- グローバル化に対する、個々の考えが明文化されている

### <児童・生徒の状態目標>

- 自分の身近で、どのような組織・人が、どのように地域へ貢献しているのか列挙出来ている
- それらが何のために活動しているのか、目的を考え、言語化出来ている
- 地域社会・世界に対する視野が広がっている（考え・認識が深まっている）
- 「グローバル化」に対して自分がどう考えているか言語化・明文化出来ている
- また、それらを共有し、他の人の考えを受け入れることが出来ている  
(他の考えを受け入れ、自分の考えを深めたり、相乗効果を創出したり出来ていれば尚良い)
- 前項で定めた、「セーフスペース」を意識・順守出来ている

### <授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
導入 ワーク 1  思考 5 分 共有 10 分	<p>・今回の学習内容を説明し、自分達の地域社会で活動する人々について考え、意見を共有する。</p> <p>&lt;声掛けの例&gt; 「今日は、皆さんが自分の住む地域や世界がどの様に繋がっているのか考えます。」 「最初に、自分の住んでいる地域で、どんな組織・団体や人が、どの様に地域関わっているのか考えてみましょう。」</p>	<p>・WE 教育プログラムにおける、地域社会の定義は、「ある一定地域に住む人々から成る社会」「地縁関係に基づく集団が形成する、仕組みや関係性の総体」としている。 例：学校、町内会、自治会等</p> <p>・貢献内容の例：義務教育の無償提供、安全確保、環境美化、児童福祉等</p>
ワーク 2  思考 5 分	<p>・ワーク 1 で挙げた団体・組織、人が、何のために活動・提供しているのか、目的を考え、私達が「誰のために地域社会を築いているか」「地域社会で何を築いている</p>	<p>・特定のコミュニティに対する批判、偏見等が出た場合、前項のセーフスペース</p>

<p>共有 10 分</p>	<p>か」をまとめる。</p> <p>&lt;声掛けの例&gt;  「皆さんが挙げてくれた団体・組織、人と、それらの活動は、誰のため・何のために行ったり、提供したりしているのか考え、まとめてみましょう。」</p>	<p>スを意識するよう伝えるようにする。</p>
<p>ワーク 3</p> <p>思考 5 分 共有 10 分</p>	<p>・地域社会のグローバル化について触れ、グローバル化が社会で進展している事に対し、どのような心構えを持つか考え、共有する。</p> <p>&lt;声掛けの例&gt;  「最後に、私達と世界がどう繋がっているか考えてみましょう。私達の生活の中には、世界中の物が溢れています。例えば、どの家にも外国の食べ物や調味料が食卓にあるはずです。</p> <p>インターネットを使えば、世界中の情報にアクセスしたり、外国の人と電話をしたり、外国のものを買ったりすることが簡単にできるようになっています。また、私達の地域で生活し、働いている、外国籍の人も増えています。この様に、国境を越えた人・モノ・お金・情報等のやり取りは年々盛んになっています。つまり、世界中の国々・人々がお互い頼り合う関係になっており、グローバル化無しでは生活が成り立たなくなっていると言えます。</p> <p>こうしてグローバル化が進展することは、私達の今後の生活にどんなことをもたらすでしょうか？</p> <p>そして、グローバル化が進むことに対して、私達はどのような考えや心構えを持てばよいでしょうか？残りの時間で考えてみましょう。」</p>	

## アクティビティ STEP1-B1 問題クモの巣 ★★★★★

実施時間：40分

使用教材：アクティビティブック P.8 ガイドブック P.18

形式：グループワーク→全体ワーク

準備物：付箋、模造紙 1枚、マジックペン

(グループワークの場合は、グループ分用意)

### <活動内容>

自分が知っている社会課題をマインドマップ形式(クモの巣のようにつながりがある事象を線で結びつないでいるもの)で列挙し、解決策を考え合うことで、それぞれの社会課題が関連し合い、社会課題の解決には自分の興味関心事から着手すれば良いという

気づきを視覚的に得る。

### <目標>

- 児童・生徒自身が知っている社会課題が、各グループで10個以上模造紙へ挙がっている
- 関連する社会課題どうしを線で結び、全体的にクモの巣状になっている
- 挙げた社会課題はSDGsのどのゴールに向け国際社会が解決に向かっているかを結び付ける。
- グループごとに社会課題の解決アイデアも考える

### <児童・生徒の状態目標>

- 社会課題を挙げ、関係性の整理等を通じ、社会課題に対する理解が深まっている
- キーワードや時事情報等から、繋がりや発見や連想等、情報整理に関する気づきを得ている
- 小さな取り組みから問題解決が出来ることを理解し、「自分達にも変化を起こせる」という自信が少しでも付いている

(この時点で自分が関心を持っている社会課題や取り組みに気付くことが出来ていれば尚良し)

### <授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
導入 社会課題の 書き出し  ワーク5分	・児童・生徒達が知っている社会課題を付箋に書き出させる。 (各グループ10個以上) <声掛けの例> 「今日は、私達の身の周りや世界にどんな社会課題があるか、それぞれの問題がどう関係しているか、解決するためにはどんな事から取り組んでいけばよいか考えます。最初に、自分が知っている社会課題を付箋に書きましょう。付箋1枚に1つの社会課題を書きましょう。」	・児童、生徒が社会課題をあまりイメージ出来ない場合、大きなテーマを例に出す。(貧困・環境問題・テロ・差別・虐待・難民・児童労働・人身売買・食料廃棄、いじめ等) ・後日STEP2-B1(インスピレーションカードゲーム)を行う場合、このワークで出てきた社会課題は記録、保存しておく。

<p>共有・整理</p> <p>ワーク 10 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋を模造紙に貼り付け、関係していると思われるものを線で繋げさせる。</li> <li>・全体の概観がクモの巣状になるまで続ける。</li> </ul> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「それでは、皆の書いた付箋を模造紙に貼みましょう。そして、似ている・関係すると思うものどうしを線で繋いでみましょう。」「関係するものは複数線で結んで大丈夫です」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋の貼り方は自由。</li> <li>・線の繋ぎ方も自由。</li> <li>・グループ内で独自に規則を定める場合、セーフスペースを意識させるようにする。</li> </ul>
<p>説明・思考</p> <p>説明・ディスカッション</p> <p>5 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会課題が複雑に絡んでいる事を示す模造紙に注目させ、「社会課題が一見巨大で恐ろしい難題であるように見える」ことを伝える。</li> <li>・貼付した問題の 1 つを手で隠し、解決したと仮定する。それに付随してどの様なことが起きるか問いかける。</li> <li>・児童、生徒側から、「他の問題も同時に無くなると思う」といった内容の回答を得る。</li> </ul> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「模造紙全体を見てください。クモの巣の様に見えますよね。この様に、社会課題はそれぞれが複雑に絡み合っ、とても大きく、難しい問題の様に見えます。では、ここでこの問題が無くなったと仮定すると、どうなると思いますか？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問いかけの際、左記の期待する回答がなかなか出てこない場合は、誘導しない程度に「この問題が解決したら、世界はこういう状態になる」といったヒントを出す。</li> <li>・児童、生徒の状況に併せ、「放射線」「●●●」などの表現を行う。</li> </ul>
<p>解決策提示</p> <p>ディスカッション</p> <p>20 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会課題は、1 つのアクションが様々な問題の改善に繋がることを伝える。</li> <li>・模造紙に貼り付けた社会課題は SDGs のどのゴールに向かって進んでいるか結びつける。</li> <li>・社会課題の解決策をグループでもアイデアを出し合う。</li> </ul> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「この様に、1 つの問題を解決すると、同時に他の問題にも良い変化をもたらすことができます。これらの社会課題を少しでも、もしくは完全に無くすために、皆さんはどんなことが出来るか考えてみましょう。小さなことでも大きなことでも構いません。アイデアをグループごとに考え、社会課題の近くに書き出してみましょう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模造紙に貼った社会課題に SDGs のゴール番号を記入したり、同じ色のシールなどを貼る。</li> </ul>

## アクティビティ STEP1-B2 ワールドマップ ★★★★★

実施時間：45分～90分

使用教材：アクティビティブック P.9 ガイドブック P.18

形式：グループワーク

準備物：約6mのロープ×グループ分、データ用チップ6種類×グループ分、

データ記入用シート×グループ分、シート記入用マーカー×グループ分、

正解・解説用データ（配布する場合は印刷）

### <活動内容>

世界を5つの大陸にわけ、大陸毎の人口、オリンピックメダル獲得数、GDP等の数値の違いを予測し、実際と比較する。

大陸毎に数値が違う理由や予想と実際の数値に差が出た要因等を振り返り、世界の貧困問題を視覚的に捉える。

### <目標>

- ロープで5大陸の略図を作れている
- 統計データ記入表の各指標の予想を、データチップで各大陸へ配置できている
- 統計データ記入表の予想欄が3列以上記入されている
- 各指標において、予想した数値と実際の数値の違いに対し、感想や気づきを述べられている

### <児童・生徒の状態目標>

- 生まれた場所によって不平等や格差が起きていることを理解し、問題意識が高まっている
- 固定観念や先入観等の影響で物の見方が偏ることを体感している

### <授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
導入 ロープによる 世界地図作成 ワーク2分 確認2分	<p>・今回の授業内容を説明し、ロープで世界地図を作ってもらおう。</p> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「今日は世界の大陸別の数字の違いを考えます。最初に各グループに配ったロープで世界地図を作ってください。」</p>	<p>・白地図をA4以上で印刷し、配布することで代替可。</p> <p>・作った地図で、北米・南米・アジア・ヨーロッパ・アフリカの5大陸がどこであるか確認する。</p>
数値予測 (データチップ 配置) ワーク 10～20分	<p>・統計データ記入表の各指標を予想する。</p> <p>・各大陸にデータチップを配置し、統計データ記入表の予想欄に配置したデータチップの総計を記入させる。</p> <p>・指標毎に制限時間(2～3分程度)を設ける。</p> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「それでは、これから幾つか数を予想してもらいます。まずは、各大陸に世界の人口が何%ずつ分布しているか2分で予想してみましょう。予想したら、その数を世界地図の各大陸に、～色のデータチップを置いて表してください。</p> <p>データチップを置いたら、統計データ記入表の「予想」の欄に</p>	<p>・数値予測は必ず人口から始める。</p> <p>・データチップの単位は%である。</p> <p>・データチップは指標毎に別の色を使う。混同しないよう注意させるようにする。</p> <p>・授業時間や状況に応じ、予測する指標は、3～</p>

	同じ数字を書いてください。」	6種類で設定する。 (必ず人口を含むこと) ・全ての指標の予測終了後、調整の時間を設けて良い。
正解発表 説明 6分	・正解を発表し、統計データ記入表の「実際」の欄に、正しい数値を記入させる。 <声掛けの例> 「それでは正解を発表します。人口は、北米が8%、南米が6%(以下略)」	・正解が記入されたシートを印刷し、配布しても良い。 ・正解は、児童、生徒がしっかり聞き取れる声量、速さで伝えるようにする。
振り返り ディスカッション 15~25分	・予想と実際の数字の違いについて、どの様に感じたか、振り返りを行う。 <振り返り用質問例> 「このワークをやってみて、今どんな気持ちや想いですか?理由も含めて教えてください。」 「驚いたことはありましたか?」 「データに規則や傾向はありますか?」 「なぜGDPと消費食物のデータが、ほぼ同じ数字になっているのでしょうか?」 「どの大陸の人が最も満足していると思いますか?理由も含めて教えてください。」 「世界は最初からこの数値分布だったと思いますか?」 「こうした数値分布になっているのは何故だと思いますか?」 「大陸毎の数値の違いを改善するには、 ・どんなことが必要だと思いますか? ・私達にはどんなことが出来ると思いますか? ・個人的に出来る事は何かありますか?なるべく現実的、具体的に教えてください。」 「近い数字、大きく違う数字はありましたか?理由も含めて教えてください。」	
解説 15~30分	スライドを使い、データの解説を行っていく。	生徒の自学として促すなどもよい。

## アクティビティ STEP1-B3 世界の貧困について考えよう

実施時間：--分 使用教材：アクティビティブック P.- ガイドブック P.-

準備物：-

<活動内容>

-

<目標>

●-

<児童・生徒の状態目標>

●-

<授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
導入 -分	・ <声掛けの例>「」	・
分	・ <声掛けの例>「」	・
-分	・ <声掛けの例>「」	・
-分	・	・

## アクティビティ STEP1-B4 教育の重要性への理解

## アクティビティ STEP1-B5 世界の貧困について考えよう(国際問題編)

## アクティビティ STEP1-B6 問題コンパス ★★★★★

実施時間：45分

使用教材：アクティビティブック P.12 ガイドブック P.19

形式：全体→グループワーク（机等を下げ、広いスペースを確保すること）

準備物：A3用紙、マジックペン、養生テープ

### <活動内容>

社会課題を列挙し、それぞれの情報を整理することで、各グループが取り組みたい課題を決める。

### <目標>

- 「情熱がある」と回答した児童、生徒が多かった社会課題の上位4つが判明している
- 各グループで取り組みたい社会課題が1つ以上決まっている

### <児童・生徒の状態目標>

- 社会課題に対し、その問題が世界にどのような影響を及ぼすのか、他の問題とどのように関連しているのか、情報整理が出来る
- 関心のある社会課題に対して、問題、危機意識を持っている
- 関心のある社会課題を解決するため、どんなアクションを起こせるかアイデアが浮かんでいる
- 取り組むと決めた社会課題の解決に向け、意気込んでいる

### <授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
事前準備	・机等を下げさせ、教室の四隅に「情熱がある」「興味がある」「疑問に思う」「関心が無い」とそれぞれ書いたA3用紙を貼った、選択肢コーナーを設ける。	・体育館や多目的室等、広い場所で実施しても良い。
導入 問いかけ 説明、 ディスカッション 7分	・児童、生徒に以下の質問を問いかけ、挙がった社会課題をメモする。 「もし、あなたが世界的なリーダー/ジャーナリストなら、どんな社会課題に取り組みたいですか?」「ニュースや新聞、インターネット等でよく見かける社会課題にはどんなものがありますか?」「世間であまり注目されていない社会課題には、どんなものがあるでしょうか?」「あなたが悩んでいる問題がありますか?」  <声掛けの例> 「今日は、いろいろな社会課題に関する情報や考えを整理し、各グループでどの社会課題に興味関心があるか、取り組みたいか見つけます。最初に皆さんに幾つか質問をします。(上記の質問を問いかける)」	・世界的なリーダー/ジャーナリストについては、必要に応じて補足する。
関心度調査 アンケート 8分	・先の問いかけで挙がった社会課題を1つずつ読み上げ、一人ひとり「情熱がある」「興味がある」「疑問に思う」「関心が無い」という選択肢コーナーへ移動させ、人数を記録する。  <声掛けの例>	・間違いや正解はない事、自分自身の気持ちに基づいて動くことを伝えてからアンケートを取る

	「今挙がった社会課題を1つずつ読み上げるので、自分がそれに対してどう感じるのか、「情熱がある」「興味がある」「疑問に思う」「関心が無い」から選び、対応する角に動いてください。	こと。
話し合い ディスカッション 15分	<p>・先のアンケートで「情熱がある」の回答のうち、上位4つについて、以下の質問を問いかけ、ディスカッションを行う。</p> <p>「この問題について、どんな事を知っていますか?」「この問題はなぜ大切、重大なのでしょう?」「この問題は、他にどんな問題と関係があるのでしょうか?」「もし、この問題を解決しなければ、人や地球にどんな短期的、長期的な影響を及ぼすのでしょうか?」「私達はどのような行動を起こせるのでしょうか?」「私たちが解決に向けて行動を起こす際、どんな困難があるのでしょうか?」</p> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「先程、「情熱がある」と答えた人が多かった社会課題は、上から～…でした。これから、それぞれの問題に対し、皆さんがどう考えているか話し合います。(上記質問を問いかける)」</p>	・セーフスペースを意識させること。
課題決定 ディスカッション 15分	・先に話し合った、上位4つの社会課題のうち、グループ内で取り組む社会課題を決める。	・着手する社会課題は複数でも良い。

## アクティビティ STEP1-C1 ペアを探せ!SDGs問題マッチング ★★★★★

実施時間:20~45分

使用教材:アクティビティブック P.13 ガイドブック P.21

形式:グループワーク(34名以上で実施する場合、2グループに分ける等の配慮が必要)

準備物:SDGs ペアマッチングシート(切ったもの1枚、原本1枚)、SDGs 一覧表

### <活動内容>

SDGsの17の指標に関する文章を一人ひとりに配り、神経衰弱の要領で、同じ指標のペアをすることで、各指標の内容、目的や、取り組むべき問題を知り、SDGsへの理解を深める。

### <目標>

●SDGsの同じ指標に関する文章を持ったペアが17組出来ている

### <児童・生徒の状態目標>

●SDGsの各指標がどのような物か、どのような社会課題と繋がっているか、大枠を理解している

●SDGsを知り、解決策や関連する社会課題など、様々な考えが浮かんでいる

### <授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
事前準備	<ul style="list-style-type: none"><li>・机等を下げさせ、広いスペースを確保する。</li><li>・SDGs ペアマッチングシートをそれぞれ切り出しておく。</li><li>・SDGs 一覧表を人数分印刷しておく。</li></ul>	
導入 ワーク10分	<ul style="list-style-type: none"><li>・SDGs ペアマッチングシートを切ったものを、1人1枚ずつランダムに配布する。</li><li>・同時に、SDGs 一覧表も配布する。</li><li>・自分と同じSDGsの指標に関する文を持っている人を探し、ペアを作ってもらおう。</li><li>・ペアが出来たら、先生(もしくは正解確認係)に確認を取らせる。</li><li>・全員がペアになるか、制限時間が来たら終了</li><li>・正解したペアは、他のサポートや、SDGs 一覧表の読み込みに回ってもらう。</li></ul> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「今日はSDGsという世界の目標について勉強します。SDGsにはのゴールと169のターゲットがあります。これから配る小さなカードには文章が書いてありますが、文章は全員違います。併せて配るSDGsの17のゴール一覧表を見ながら、同じ目標の文章を持った人とペアを作ってください。ペアが出来たら私のもとに来て、正しいペアかどうか確認を取ってください。制限時間は～分です。正解したペアは、時間まで他のメンバーを手伝うか、SDGs 一覧表をじっくり読み込んでください。」</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・奇数の場合は、先生も加わるか、1名を正解確認係にして調整する。</li></ul>

SDGs の 概要説明 説明 10~35 分	・SDGs の概要を説明する。時間がある場合は、 17 の目標と 169 のターゲットを幾つか抜粋 して説明する。	・ガイドブック P.22~ 23 を説明しても良い。
------------------------------	---	-------------------------------

## アクティビティ STEP1-C2 24 時間 SDGs を探せ ～SDGsを詳しく調べよう～ ★★

実施時間:45 分

使用教材:アクティビティブック P.14 ガイドブック P.21

形式:個人→グループワーク

準備物:付箋、B4 程度の白紙、別データ

### <活動内容>

自分の生活スケジュールを書き出し、SDGs との繋がりを視覚的に捉える。

同様に、世界の最貧困層、中間層の子ども達の生活と SDGs との繋がりを考え、自分の生活との違いを考える。

格差や不平等等を解決するために、自分達にすぐ出来る事を考え、発表する。

### <目標>

- 自分の生活スケジュールを紙に書き出している
- 書き出した生活スケジュールの 1 つ 1 つと、SDGs との繋がりが付箋で示されている
- 世界の子どもの生活スケジュールについても、SDGs との繋がりが付箋で示されている
- 自分の生活と世界の子どもの生活との違いを考察できている
- 自分と世界の子どもの生活との格差や不平等を解消するためのアクションについて考えられている

### <児童・生徒の状態目標>

- 自分の生活と SDGs が密接に関わっている事を自覚している
- 自分の生活と関わりの深い SDGs の目標について理由等を考察できている
- 世界の子どもの生活と自分の生活において、それぞれに関わっている SDGs の目標の違いに対し、気づきを得ている
- 上記の違いや格差等に対し、自分たちに何が出来るか考えられている

### <授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
導入 ワーク 10 分	<p>・授業内容を説明し、B4 程度の紙に、自分の生活スケジュールを 24 時間分書き出す。</p> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「今日は、自分の生活が SDGs と深く関係していることや、世界の子どもの生活と自分の生活がどの様に違っているのか等について考えます。まず、自分の 1 日のスケジュールを紙に書きましょう。移動手段や使う物等、関係するものも、思いつく限り書いてみましょう。」</p>	<p>・場所、移動時間、移動手段等、自分以外と関わる物も書き出させること。</p>
自分の生活と SDGs との繋がりの確認 ワーク 10 分	<p>・書き出したスケジュールの 1 つ 1 つに、SDGs のどの目標が関係しているか付箋に書き出し、スケジュールに貼る。</p> <p>・SDGs の目標の内、どれが自分の生活と関わりが深いか、何故関わりが深いか等、何か気付くことがあるか考察する。</p> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「今書き出したスケジュールやモノと関係している、SDGs の目標を付箋に書き、スケジュールに貼りましょ</p>	<p>・STEP1-C1 で使用した、「SDGs 一覧表」を見ながら取り組ませても良い。</p>

	う。」「SDGs の目標のうち、どれが皆さんの生活と深く関係していたでしょうか？スケジュールに付箋を貼って、何か分かる・気づくことはありますか？」	
世界の子ども達の生活との比較 ワーク 10 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の最貧困層と中間層の生活の絵とスケジュールが書かれた紙を配り、関係する SDGs の目標を付箋に書き、プリントに貼る。</li> <li>・自分の生活と関係している SDGs の目標とどの様な違いがあるか、なぜ違っているのか等を考察する。</li> </ul> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「次に、世界の子ども達のスケジュールを書いたプリントを配ります。先程と同じように、それぞれのスケジュールに関係している SDGs を付箋に書いて、プリントに貼りましょう。」スケジュールに付箋を貼って、自分のスケジュールと関わりの深い SDGs の目標とどう違っていたでしょうか？また、何か分かる・気づくことはありますか？」</p>	
アクション考察 ディスカッション 15 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本、最貧困層、中間層の差が具体的に分かる絵や数値と、SDGs マークが入ったカードを配布する。</li> <li>・違いや格差を解消するために、自分達がすぐにできることが無いか考えて発表する。</li> </ul> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「日本と最貧困層と中間層の違いが分かるカードを配ります。違いを解消するために、私達がすぐ出来る事は何かあるでしょうか？」</p>	

## アクティビティ STEP1-C3 将来の夢×SDGs を探せ ～キャリア教育のSDGs～ ★★

実施時間：45分

使用教材：アクティビティブック P.14～15 ガイドブック P.22

形式：個人ワーク

準備物：A4 程度の白紙 1～2枚

### <活動内容>

自分が好きなこと、やりたいことについて調べ、SDGs との繋がりを考える。

自分の好きなこと、やりたいことに、SDGs に関係する行動を結び付けられないか考える。

消費者として、今起こせる、SDGs に関連したアクションを考える。

### <目標>

- 自分の好きなこと、やりたいことが、どの様な人に役立ったり、どの様な社会課題の解決に繋がったりしているのか、考えが浮かんでいる
- 自分の好きなこと、やりたいことの中で、SDGs と関係する工夫や行動に関する案が出ている
- 今、自分が消費者として起こせる、SDGs に関するアクションに関して案が出ている

### <児童・生徒の状態目標>

- 自分がどんなことが好きなのか、どんなことをやりたいのか、自己理解が深まっている
- 自分の好きなこと、やりたいこと(キャリア)に関して理解が深まっている
- 調べたことを他の人に説明できている
- SDGs に関係するアクションを考えることで、SDGs が身についているという実感を高める
- SDGs に関係するアクションを考えることで、今後のアクション計画作成にワクワクしている

### <授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
導入 好きなこと、 やりたいことを 考える ワーク 5分	・授業内容を説明し、自分の好きなこと、やりたいことを紙に書き出してもらう。 <声掛けの例> 「今日は、皆さんに自分の好きなことや、やりたいこと(職業)を考えてもらいます。まず、自分の好きなことや、やりたいことを、配った紙に書いてください。」	
好きなこと、 やりたいこと に関する調査 ワーク 25分	・好きなこと、やりたいこと(職業)が、どの様な人に役立っていたり、どの様な社会課題の解決に繋がっていたりするのかわかるか調べる。 ・好きなことや、やりたいこと(職業)の中で、SDGs に絡めた工夫や行動が出来るか考える。 <声掛けの例> 「皆さんが紙に書き出した、好きなことややりたいことが、どの様な人に役立ったり、どの様な社会課題の解決に繋がったりしているのかわかるか調べてみましょう。そして、皆さんの好きなことや、やりたいことの中で、SDGs に関係する工夫や行動を考え	・例はアクティビティブック P.15 を参照。

	てみましょう。」	
消費者として 今起こせる、 SDGs に関係 する行動を 考える  ディスカッション 15 分	<p>・今、消費者として起こせる、SDGs に関するアクションを考える。</p> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「最後に、今、私達が消費者として起こせる、SDGs に関するアクションには、どの様なものがあるでしょうか？例えば、作られているものが SDGs のどの目標と関係しているのか考えるよう意識する、といったことでも構いません。」</p>	<p>・意見が出にくい場合は、「SDGs に配慮されていないものに対して、私達は企業へ声を上げる力があること」を伝える。</p>

## アクティビティ STEP1-D1 子どもにまつわる社会課題を探せ!

実施時間:-分

使用教材:アクティビティブック P.- ガイドブック P.-

形式:

準備物:-

<活動内容>

-

<目標>

●-

<児童・生徒の状態目標>

●-

<授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
導入 -分	・。 <声掛けの例>「」	・
-分	・ <声掛けの例>「」	・
-分	・ <声掛けの例>「」	・
-分	・	・

## アクティビティ STEP1-D3 スピーチから考える子どもの権利条約

実施時間:45分以上(使用するスピーチ教材の数に応じて調整)

使用教材:アクティビティブック P.15 ガイドブック P.24 進め方の手引

形式:グループワーク(1グループ6人以内)

準備物:スピーチ原稿、ワークシート「子どもの気持ちになって書き出そう」、

冊子「知ろう!『子どもの権利条約』」より、「子どもの権利条約」について学ぼう、

「子どもの権利条約」の内容を見てみよう!、子どもの権利条約の部分までの3ページ分

同冊子のカード部分(点線部分で切っておく)、

ワークシート「私たちに出来ることを考えよう」

各スピーカーに関する補足資料(画像、動画、新聞記事など)

### <活動内容>

子ども(当時)が行ったスピーチを通じ、子どもの権利条約と、権利を奪われた子どもの存在について学び、考える。

権利を侵害された子ども達を助けるため、子どもの権利を守られるようにするために、自分達に何が出来るのか考える。

### <目標>

- ワークシート「子どもの気持ちになって書き出そう」の各欄が埋まっている
- かつ、子どもの権利条約の何条が守られている・守られていないのか記載されている
- ワークシート「私たちに出来ることを考えよう」に考えが記載されている

### <児童・生徒の状態目標>

- スピーチを読み、自分がどう感じたのか他の人に説明できている
- 子どもの権利が守られていない実情に対して問題意識を有している
- 子どもの権利条約について大まかな説明が出来ている
- 自分達が子どもの権利条約で守られていること、権利を主張してよい事を知り、子どもにまつわる社会課題への興味関心が高まっている
- 子どもの権利の侵害、保障に関して、自分達に何か出来ないか案が浮かんでいる
- 実例に対し「すごい」「かわいそう」という感想(他人事)に終始せず、子どもでも社会を変えることが出来るという自信が高まっている

### <授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
導入・ アイスブレイク  説明3分	・授業内容を説明し、アイスブレイクを行う。 <声掛けの例> 「今回は「子どもの権利条約」という、世界の国々が1989年に作った、基本的な人権が子ども達に保障されるよう定めた約束(条約)について学習します。「子どもの権利条約」と聞いて、どんな内容だと思いましたか?どんな印象を持ちましたか?また、何か知っていることはありますか?」	・この際、参加者を6人以内の小グループに分ける。 ・意見が出にくい場合は、日本国憲法や、世界人権宣言等、他の例を出しても良い。
スピーチ	・スピーチ原稿を配り、スピーカーに関する背景	・感情移入して真剣に読

<p>読み込み</p> <p>ワーク 10分</p>	<p>説明を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチ全文を読ませる。</li> </ul> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「これから、子どもが行ったスピーチが書かれた紙を配ります。最初に、スピーカーの背景について見ていきましょう。(補足資料を見せつつ、各スピーカーに関する背景を説明) それでは、スピーチを読んでみましょう。」</p>	<p>むようにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノンフィクション(実在の人物によるスピーチ)であることを伝える。</li> </ul>
<p>スピーカーの気持ちの想像</p> <p>ワーク、ディスカッション</p> <p>10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート「子どもの気持ちになって書き出そう」を配る。</li> <li>・個人ワークでワークシートを記入させた後、グループで記入内容を共有する。</li> </ul> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「シートにある、嬉しかったこと、辛かったこと、実現させたかったことを、スピーカー本人になりきって考えてみましょう。」「それでは、グループ内でシェアしてみましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチの内容や、スピーカーに関して疑問等がある場合はここでヒアリングする。</li> <li>回答が難しい場合は、当団体事務局 (<a href="mailto:info@ftcj.com">info@ftcj.com</a>)へお問い合わせください。</li> </ul>
<p>子どもの権利条約の解説</p> <p>説明 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子「知ろう!『子どもの権利条約』」の解説を配布する。</li> <li>・次の項目のうち、複数ピックアップして、条約の解説を行う。</li> <li>・子どもの権利条約には、「生存・発達・保護・参加」の4つの権利に分けられていること</li> <li>・国連総会に集まった、全ての国が賛成して採択されたこと</li> <li>・締結国の責任として権利を守らなければならないこと</li> <li>・子どもの権利は、全員が生まれながらにして持っていること</li> <li>・自分だけの権利を主張するのではなく、他の子どもの権利を尊重する事が大事であること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学6年生以上の場合、社会科(歴史科・日本史)の教科書を併用しても良い。</li> </ul>
<p>子どもの権利条約を考える</p> <p>個人ワーク、グループワーク</p> <p>10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループに、子どもの権利条約カード(冊子のカード部分)1セットを配布し、机等に並べ、どんな内容があるか見る。</li> <li>・ワークシート「子どもの気持ちになって書き出そう」に記入した内容とカードを見比べ、何条の権利が守られていないか、または守られているか考え、条文のタイトルをワークシートへメモする。</li> <li>・個人ワークが終わったら、感じたこと、考えたことをグループで話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間に余裕があれば、グループワークの後、全体シェアの時間を設けても良い。</li> <li>・ワークシートの「実現させたかったこと」の内容は、本来子どもの権利条約で保障されているものであることを補足し、児童生徒に子どもの権利条約が守られていない実情があることを気付かせる。</li> </ul>
<p>自分達に出来ることを考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート「私たちに出来ることを考えよう」を配布し、権利が守られていない子ども達を助けたり、子どもの権利を守られるようにしたりするには、自分達に何が出来るのか考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えが出にくい場合は、STEP1-C3と同様、得意なこと、好きなことを活かしながら、日常生活</li> </ul>

ディスカッション 7分	・実際にアクションを起こした子ども、若者の事例を紹介する。 <声掛けの例> 「権利が守られていない子どもを助けたり、子どもの権利が守られるようにしたりするためには、自分達に何が出来るのか考えてみましょう。」	の中で工夫出来ることを考えさせるよう促す。
----------------	---	-----------------------

## アクティビティ STEP2-A1 チームビルディング シュー・タワー ★★

実施時間：15分 使用教材：アクティビティブック P.16 ガイドブック P.26

形式：グループワーク(6～10名)

準備物：紐(長さは、天井から床上1m程度の高さまで)

### <活動内容>

靴を指定の高さまで重ね上げ、5秒安定させるゲームを通じ、チーム作業に必要な要素を考える。

### <目標>

●天井から吊した紐の高さまで、各自の履いた靴が重なり、かつ5秒間安定させている

### <児童・生徒の状態目標>

●チームで作業を行う際、どの様なことが大事なのかアイデアや気づきを得ている

### <授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
ルール説明 ワーク 説明2分 ワーク5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの中で1名、安全確認係を決める。</li> <li>・各自が履いている靴(上履き)を、天井から吊した紐の高さまで重ね上げる。</li> <li>・紐の高さまで重ね上げたら、安全確認係が5秒数える。</li> <li>・その間、重ね上げた靴が安定していれば成功。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・靴は履いている状態で重ねる。</li> <li>・同じ人の靴を2足連続で重ねてはならない。</li> <li>・靴と靴の間に隙間が生じてはならない。</li> <li>・早く終了した場合は、紐を短くし、2回目を行う。</li> <li>・他チームへの妨害は禁止。</li> </ul>
振り返り ディスカッション 8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークの振り返りを行う。</li> <li>・グループ共有の後、全体共有を行う。(質問例)</li> <li>・ゲームの途中、どんな気持ちになりましたか?</li> <li>・どんなことが難しかったですか?</li> <li>・どうすればもっとうまく出来るようになると思いますか?</li> <li>・靴を重ねる順番をどの様に決めましたか?</li> <li>・最初に靴を置いた人と、最後に置いた人のどちらが大変だと思いますか?</li> <li>・何か気付いた事や考えたことはありますか?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この枠は振り返りであって、反省ではないことを意識させる。(たればばかりではなく、出来たこと等、ポジティブな意見も出させるようにする)</li> <li>・このゲームは「勝負」ではないことにも触れる。</li> </ul>

## アクティビティ STEP2-A2 ナンバータッチ

実施時間:20分～30分 使用教材:アクティビティブック P.16- ガイドブック P.26-

準備物:A4程度の紙(1～60の数字をいろいろな大きさに書いておく)、ロープもしくは紐(スタートラインとゴールラインとして使用する)、ストップウォッチ

### <活動内容>

グループごとに1から60までの数字が記載された紙を順番にタッチをしていく。数字を誤って順番通りにタッチできなかつたり、2人以上が同じ数字をタッチしてしまった場合は、はじめからやりなおしとなる。

### <目標>

●ミッションを達成するためには、チームにどのようなルールを設けるとよいか、仲間にどのような配慮があるとよいかを認識する。

### <児童・生徒の状態目標>

●共同作業を行う際のコミュニケーションがとれている。

### <授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
導入 2分	<ul style="list-style-type: none"><li>数字を記載した大紙を参加者から見えない位置に置き、スタート地点とゴール地点を決める。</li><li>ゲームの説明をする: グループで1～60の数字をタッチして行く。2人以上の人が同時にタッチした場合、1からやり直し。数字を飛ばしたり、間違えたりした場合もやり直し。全員がゴール地点に行くまでストップウォッチは止まらない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>失敗した仲間を責めずに、どうしたらより良い成果に繋がるかを意識するように促す。</li></ul>
チームビルディング 3分	<ul style="list-style-type: none"><li>30秒以内にグループ名を決めてもらい、ボードに書く。</li><li>2分間の時間を取り、どれだけ早く出来るか、目標タイムを決めてもらう。</li><li>それぞれのグループに目標タイムを発表してもらい、黒板などにグループ名と目標タイムを記載する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li></li></ul>
ゲームの開始 5分	<ul style="list-style-type: none"><li>スタート地点に立たせ、合図を出してゴールに来るまでの時間を計る。</li><li>ゴールをした順に、目標タイムの横に実際の時間を書き出していく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li></li></ul>
行動の考察 5分	<ul style="list-style-type: none"><li>より時間を短縮するために、行えることをグループごとに話し合ってもらおう。</li><li>再度、それぞれのグループに目標タイムを発表してもらい、黒板などにグループ名と目標タイムを記載する。</li></ul>	
ゲームの実践 5分	<ul style="list-style-type: none"><li>スタート地点に立たせ、合図を出してゴールに来るまでの時間を計る。</li><li>ゴールをした順に目標タイムの横に実際の時間を書き出す。</li><li>時間に余裕があれば、何度か話し合いとゲームを繰り返す。</li></ul>	
振り返り	<ul style="list-style-type: none"><li>今回のゲームからの学びをグループごとに話し合う。</li></ul>	

10分

振り返り用質問例:

現実的な目標設定について

なぜ目標を決めたと思いますか？

目標達成出来た時と出来なかった時はどのような気持ちになりましたか？

目標を決めることはなぜ重要だと思いますか？

何かをする時、目標を決めるとどうなりますか？

作戦について

どのような作戦を立てましたか？

どの作戦が上手く行って、どの作戦が上手くいきませんでしたか？

作戦のある・無しは、どのような影響をもたらしますか？

コミュニケーションとチームワークについて

どのようなコミュニケーションを取りましたか？言葉ですか？ジェスチャーですか？

どのようなコミュニケーションが「効果的」だと思いますか？

それは誰にでも同じですか？人によって変わりますか？

チームで目的を達成したい場合、「頼る」ことは必要だと思いますか？どのように頼れば良いと思いますか？

ストレスや焦りは感じましたか？それらの原因は何だと思いますか？

チームで何かを行う時、ストレスや焦りはどのような影響をもたらしますか？

ストレスや焦りを最低限に抑えるにはどうしたら良いと思いますか？

チームの全員が全力を出すには何が必要だと思いますか？

## アクティビティ STEP2-B1 インスピレーションカードゲーム ★★★★★

実施時間：45分

使用教材：アクティビティブック P.17 ガイドブック P.27

形式：グループワーク（4人程度）

準備物：模造紙6枚、インスピレーションカード、正方形型の付箋、

アクションの種類模造紙貼り付けラベル

（カテゴリ毎に切り取り、それぞれ模造紙の上部に1枚ずつ貼っておく）、

アクションを生み出せ！インスピレーションカード名刺カード両面

（両面印刷してカード毎に切り出す）

インスピレーションカードゲーム説明スライド（必要に応じ、人数分印刷・配布）

### <活動内容>

インスピレーションカードに書いてあるモノ・コト、社会課題、6種類のアクションを組み合わせ、社会課題解決のためのユニークなアイデア出しを行う。アイデア出しはゲーム形式で競わせる。

### <目標>

- インスピレーションカードに書いてあるモノ・コト、社会課題、6種類のアクションを組み合わせ、ユニークな解決策が付箋に書かれている
- 全員分のアイデアを見て、「身近にできそうなアクション」「難しそうなアクション」「最も社会問題解決に繋がっていきそうなアクション」はどれか選べている

### <児童・生徒の状態目標>

- 楽しくアイデア出しが出来ている
- 自分のアイデアを他の人に分かり易く説明できている  
（他の人の説明時に、不明点を質問できている）
- 結果に関わらず、皆で健闘を称え合っている
- 「この種類のアクションなら取り組めそう」という期待感を持っている  
（この時点で具体的な行動計画まで考えが及んでいれば尚良い。）

### <授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
社会課題と解決策を考える ディスカッション 5分	・授業内容を説明し、社会課題にはどんなものがあるか問いかける。 ・挙げた社会課題に対し、どんなアクションが出来るか考え、挙げてもらう。 <声掛けの例> 「これまでSDGsや子どもの権利条約等を学び、社会課題に対する皆さんの考え方も変わってきていると思います。今回は、世界にはどんな社会課題があって、私達にどんなことができそうか改めて考えます。以前出たものでも構いませんので、社会課題にはどんなものがあるか挙げてみましょう。」「次に、今挙げた社会課題に対し、皆さんにはどんなアクションが	・STEP1-B1、1-C実施済の場合、当時出た意見を再利用しても良い。

	出来るか考えてみましょう。」	
<p>カード配布 説明 5 分 ワーク 10 分</p>	<p>・アクションには 6 つの種類(啓発・政策提言・自己行動変革・資金調達・ボランティア・物資支援)があることを、それぞれ例を出しつつ説明する。</p> <p>・インスピレーションカードを配布し、社会課題に対するアクションのアイデアを考える。</p> <p>・インスピレーションカード、先に挙げた社会問題、先述した、6 種類のアクションから好きなものをそれぞれ 1 つずつ組み合わせ、どの様なアクションを起こせるか考え、付箋に書く。付箋の左上には、選んだアクションの頭文字を書き、○で囲む。</p> <p>(付箋の書き方の例) インスピレーションカード:靴下 アクション:啓発 社会課題:いじめ問題を 選んだ場合</p> <div data-bbox="379 1010 943 1536" style="border: 1px solid black; background-color: #ffff00; padding: 10px; text-align: center;"> <p>○ 啓</p> <p>靴下</p> <p>×</p> <p>いじめ問題</p> <p>=それぞれの個性を認める雰囲気づくり</p> <p>個性的なデザインの靴下で 登校する日をつくる</p> </div> <p>・どのグループが最も多く、ユニークなアクションを考えられるか、競争であることを伝える。</p> <p>・付箋は 6 種類のアクション毎に分けておく。</p> <p>&lt;声掛けの例&gt; 「社会課題に対するアクションは、大きく分けて 6 種類あります。(以下説明)」「これから、皆さんに挙げてもらった社会課題に対するアクションを考えるゲームを行います。これは皆さんへの“ギフト”です。このプレゼントを使い、アクションを出来るだけたくさん考えてもらいます。」「インスピレーションカードの中</p>	<p>・6 種類のアクションの定義は以下の通り。</p> <p>【啓発】他の人に、自分の解決したい問題について知ってもらうために活動する方法</p> <p>【政策提言】政策として変化を起こすために、政治機関に対し働きかける方法</p> <p>【自己行動変革】自分の良くない癖や習慣を、良いものに変えていく方法</p> <p>【資金調達】個人、企業、財団、政府機関などから、寄付を集める方法</p> <p>【ボランティア】自分の時間を、解決したい問題のために使う方法</p> <p>【物資調達】必要としている人に届けるため、物を集めて支援する活動方法</p> <p>・付箋は 1 つのアイデアにつき 1 枚。</p> <p>・STEP2-C1 に繋げるため、インスピレーションカードは「ギフト」と紹介する。</p> <p>・付箋の書き方は、説明スライドを見せながら説明することを推奨。</p>

	<p>から1つ、先程挙げた社会課題から1つ、今説明した、6種類のアクションから1つ選び、それらを組み合わせてどんなアクションができるか、付箋に書いていってください。どのグループが一番多く、ユニークなアイデアを書けるか競争です。1つのアイデアにつき、1枚の付箋を使ってください。アイデアは、6種類のアクション毎に分けて貼るようにしましょう。」</p>	
<p>アイデア共有 ディスカッション 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ毎にアイデアを幾つ書けたか集計する。最も多かったチームを祝福し、全体でも祝福する。</li> <li>・書いた付箋を、6種類のアクション毎に分けて 模造紙に貼り、全体に共有する。</li> <li>・全体を見ながら、どのアクションが身近にできそうか、どのアクションが難しそうか話し合う。</li> </ul>	
<p>最も問題解決に繋がっている アクションを選ぶ ディスカッション 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの種類のアクションが社会課題の解決に繋がっていると思うか話し合う。</li> <li>・直前に話し合った、「身近に出来そうなアクション」と「難しそうなおアクション」と、「社会問題解決に最も繋がっているようなアクション」の間にどんな違いがあるのか、何か気づいたことがあるか話し合う。</li> </ul> <p>&lt;声掛けの例&gt;</p> <p>「どのアクションの種類が、社会課題を解決する上で重要だと思いますか？理由も含めて考えてみましょう。」  「先程話し合った、「身近に出来そうなアクション」と「難しそうなおアクション」と、今挙げてもらった「社会課題解決に最も繋がっているようなアクション」の間にどんな違いがあるか、何か気づいたことはありますか？」</p>	
<p>振り返り ディスカッション 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このゲームから気づいたこと、学んだことを共有する。</li> </ul>	

## アクティビティ STEP2-C1 Gift + Issue = Change ★★★★★

実施時間:30分

使用教材:アクティビティブック P.18-19 ガイドブック P.28

形式:個人ワーク/グループワーク

準備物:ワークシート(アクティビティブック P.19 を印刷したもの)

※次ステップでも使用するので保存しておくこと。

### <活動内容>

STEP1-C3、STEP2-B1 を踏まえ、自分の好きなこと・やりたいことと、関心のある社会課題を組み合わせ、解決に向けたアクションを考える。

### <目標>

- 自分の出来ること・好きなことと、関心のある問題を組み合わせたアクション書き出せている

### <児童・生徒の状態目標>

- 自分の書いたアクションに対し、「できる・やるぞ」と意気込んでいる
- 他の人のアイデアを受け入れ、良い点を伝える等のフィードバックが出来ている
- 他の人のアイデアを、自らのアイデアのブラッシュアップへ積極的に用いている
- アイデアを出す事にワクワクしている

### <授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
導入 説明 1分 ワーク 4分	・ワークシートの「Gift」の欄に、自分が好きなこと、出来ること、趣味、特技等を2分以内で出来るだけたくさん書く。 ・同様に、「Issue」の欄へ、自分が興味のある問題(社会課題、国際問題、国内問題、家庭内問題、学校内問題、個人問題など、どんな問題でも構わない)を、2分以内で出来るだけたくさん書く。	・+と=も書いてもらう。 ・Giftについては、具体的に書かせる。(例:音楽→聴くこと・演奏すること等) ・自分の興味がない問題は、問題と知っていてもIssueの欄へ書かないようにする。
アクションを考える ワーク 10分	・前ステップの「6種類のアクション」を意識させつつ、GiftとIssueの欄に記入したものを組み合わせ、どんなアクションを起こせるかワークシートの「Change」の欄に書く。 ・例はアクティビティブック P.18 を参照。	・出来る、出来ないで考えるのではなく、思いついたアイデアをどんどん出すよう促す。 ・アクションは、楽しくできそうであることが重要。
アイデアのブラッシュアップ ワーク 5分	・他の人のアイデアを参考に、自分のワークシートを書き足す。 ・時間がある場合は、ワークシートをグループ内で交換し、アイデアを書き足したり、いいね等の反応を書いたりさせる。	
全体発表 発表 10分	・ワークシートの内容を、全体に共有する。	

## アクティビティ STEP2-C2 S.M.A.R.T 目標を知ろう! ★★★★★

実施時間:45分

使用教材:アクティビティブック P.20 ガイドブック P.28

形式:グループワーク/グループワーク

準備物:STEP2-C1 で使用したワークシート(アクティビティブックP.19のコピー)

※次ステップでも使うので引き続き保管しておくこと。

### <活動内容>

S.M.A.R.T 目標について学び、前ステップで考えたアイデアを更に具体化する。

### <目標>

●前ステップで書いたアイデアに S.M.A.R.T 目標の要素を追加し、ブラッシュアップされている

### <児童・生徒の状態目標>

●S.M.A.R.T 目標を理解している(前ステップで自分の立てたアイデアに盛り込んでいる)

●更にブラッシュアップした、自分の行動計画にわくわくしている

### <授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
S.M.A.R.T モデルの説明  説明 5分	・アクティビティブックP.20 を基に、S.M.A.R.T モデルを説明する。	
具体例による 練習  ワーク 15分	・「テストの点数/内申点を上げる」等、身近な例を出し、S.M.A.R.T 目標をクラス全体で考える。(小学生の場合、「算数の問題を早く解く」「速く走れるようにする」等)	・児童・生徒にとって身近な例を挙げるようにする。
行動計画の ブラッシュアップ  ワーク 25分	・前ステップで書いたアクションと、S.M.A.R.T モデルを照らし合わせ、アクションをより具体化させる。	・アクションを行う上でぶつかる困難についても、何が障害なのか、どうすれば克服できるか考えさせるようにする。

## アクティビティ STEP2-C3 アクションの6つのステップを把握しよう! ★★★

本項は、WE original Action 各キャンペーンキットの簡易版である。

実施時間:45分 使用教材:アクティビティブック P.21~22 ガイドブック P.28

形式:グループワーク/個人ワーク

準備物:STEP-C1 で作成、前ステップでブラッシュアップしたワークシート  
(アクティビティブックP.19のコピー)、アクション実行のワークシート

### <活動内容>

社会課題を解決するアクションを起こす際の流れ(7つのステップ)を理解し、これからどの様なアクションを行っていくか、具体的な行動計画を作成する。

### <目標>

- アクションを行うメンバーが決まっている
- どのキャンペーンキットを使うか決まっている
- これまでのステップで考えてきたアクションに対し、いつ、誰が、何を、どこで、どの様に行うのか、具体的な行動計画を立てられている

### <児童・生徒の状態目標>

- これまでに学んだ要素を用いて、自分達の行動計画を立てられている
- 自分の意見や考えを、他のメンバーへ適切に伝えられている
- 「皆でやり遂げるぞ」という意思と希望に満ち溢れている

### <授業の流れ>

概要	学習活動	留意点
ステップ1 メンバー決め  10分	・興味がある社会課題毎、班毎等、4~6人程度で1グループを作る。	
ステップ2 解決したい 問題に関する 調査・分析  ワーク20分	・解決したい問題について調べたり、以下の様な分析を行った りする。 「何が起きているのか?」「誰に関する事なのか?」「どこで起 きているのか?」「なぜ問題になっているのか?」「原因は何 か?」「解決方法は何かあるか?」「どんな影響を与えている か?」等	
ステップ3 アイスブレイク  トーク5分	・メンバーどうして自己紹介を行い、仲間の特徴を理解する。	・どんなことが好きか、得意なことは何か等を共有する。 ・ワークシートを見せ合っても良い。
ステップ4 アクションの 決定	・アクションの種類を話し合っ決めて。	・キャンペーンキットを、先生が予め選ぶ、またはある程度選択肢を絞ってから児童、生徒に選んで

ディスカッション 10分		もらう等、状況に合わせた準備をお願いします。
ステップ5 計画を立てる  ディスカッション 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や目標、誰が、何を、いつまでに行うのか、何が必要かといった、具体的な行動計画を立てる。</li> <li>・行動計画を立てた際、個々の気持ちや考えを受け止められるよう、以下の様な質問を問いかける。 「アクションを立てたことで、今どんな気持ちですか?」「計画を立てる前と後では、考えや気持ちに変化はありましたか?」「自分が好きなことや、得意なことを活かすことや、自分が興味を持っている問題に取り組むことが大事な理由は、何だと思いますか?」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口頭で話したことは忘れ易いので、メモを取るよう意識させる。</li> </ul>
ステップ6 心構えの説明1  説明3分	<p>責任を持ってアクションを起こすことへの心構えについて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A. 写真や動画などで記録する</li> <li>B. 口だけにならないようにする</li> <li>C. 批判されても歯向かわない。</li> <li>D. 1度目で成功しなくても諦めない。</li> <li>E. 常識にとらわれない。</li> <li>F. 失敗は未成功体験であり、成功の元である。</li> </ul>	
ステップ7 心構えの説明2  説明2分	<p>アクションを楽しむための心構えを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A. 集まる時は、最初に簡単なゲームをする。</li> <li>B. 話し合いはかしこまらずリラックスして行う。</li> <li>C. アクションの後は打ち上げ等で成功を祝う。</li> <li>D. 振り返りを行い、次のアクションに改善点を反映する。</li> </ul>	